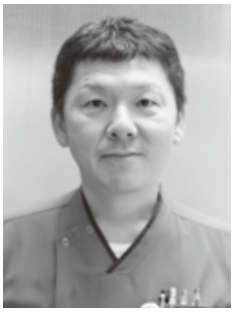
最大の経営リスクは「人」
現場の声を、施設を守る力に変える



家氏裕久［いえうじ・ひろひさ］
介護老人保健施設ゆめさき（兵庫県）
支援相談課長 兼 統括マネジャー

はじめに

「リスクマネジメント」と聞くと、転倒・転落や誤薬、誤嚥、離設など、利用者の安全に関わるリスクを思い浮かべる方が多いと思います。もちろん、それらを未然に防ぐことは重要です。しかし、施設運営に携わるなかで私が痛感したのは、経営そのものを揺るがす大きなリスクの1つが「人材」であるということでした。

私は2006年に当法人へ入職し、当施設の支援相談員、グループ内デイサービスの生活相談員を経験した後、再び当施設の支援相談員となりました。その後、施設ケアマネジャーを兼務し、2016年からリスクマネジャーを務めています。現在は統括マネジャーとして、利用者だけでなく「施設を守る」という視点からも、日々さまざまなリスクと向き合っています。

施設紹介

老健施設「ゆめさき」は、兵庫県姫路市にある入所定員100名の施設です。姫路市は人口約51万人を有する中核市ですが、今後は人口減少が見込まれており、高齢者を支える医療・介護体制とともに、その担い手となる人材の確保も重要な課題となっています。

母体である社会医療法人松藤会は、入江病院を中心に、医療から介護、在宅生活を支える各種サービスを展開しています。ゆめさきでは、在宅復帰・在宅生活支援を担う「超強化型老健」として、地域に密着した施設運営を大切にしながら、利用者一人ひとりの生活を支えています。

松藤会では、医療と居宅介護を包括的に提供できる体制を整え、地域のニーズに応じたサービス提供に努めています。

業務について

支援相談課の課長として、まず欠かせないのが日々の「数字」の確認です。入所者数や通所利用者数、空床状況、入退所の予定などを把握し、稼働状況に変化があればその理由を考え、必要に応じて居宅介護支援事業所や地域包括支援センターなどへの働きかけを行います。また、超強化型老健として求められる在宅復帰・在宅療養支援等指標についても継続して管理していきます。

施設ケアマネジャーとしては、ケアプランに沿ったサービスが提供されているか、必要なリハビリが実施されているか、利用者の状態に応じた対応が行われているかなど、必要なケアが行き届いているかを確認します。

また、統括マネジャーとしては、役職者のマネジメントや人材育成、職員からの意見聴取、職場環境の改善などを通じて、施設全体のサービス品質の維持・向上に取り組んでいます。

こうした業務を行う上で大切にしているのは、「感